

波紋

平成22年05月

No. 299

2010 May.

祝・一周年



5月号をもって波紋のデジタル化一周年となります。印刷屋さんへ編集、構成を依頼していた紙での配信から全て自前というホームページ上での公開ということで様々な問題が有りました。まずどうやって作成するか。デジタル版というといわゆるホームページの延長のようなものを検討しましたがなにしろベースとなるウェブ関連の技術が無い森松のため、簡単な新聞編集ソフトを利用したPDF公開とすることに。そこからでも現状に至るまではかなりの苦勞を要しております。今後より多くの皆さんに読まれる紙面作りを目指して、編集部一同頑張っておりますので、今後ともよろしくお願ひします。

「インプット」と「アウトプット」

社長 森 直樹



知識はいくらでも、覚えられるだけ増やすことが出来ず。しかし自分が手に入れることの出来る情報もなかに、果たしてそのまま自分が利用できるものがどれだけあるでしょうか。ほとんどの情報は応用するたみ立ては自分でその情報の本質を消化し、自分で再度組み立てなくては応用できません。つまり情報を得ること、考えて実行した結果学んだことを伝えるのがアウトプットになります。私自身、以前はとにかく自分の知識・経験不足を埋めたいばかりにほとんど自分の移動時間や待ち時間のほとんどを費やしました。その結果が増え、実際の仕事に生きると思っていたから。その結果本棚はビジネス系の本が大量に並びました。しかし実際はそのような情報がそのまま使えることは有りません。そこで必要なのは行動して、上手く行ったこと、また失敗したこと等々試行錯誤し、学んだことを自分のものにすることです。また自分なりに考えることが新たな発見に繋がると思っています。そこで以前は何かと本を読むことに振り分けていた時間も最近ではあえてインプットを抑え、逆にアウトプットするための考える時間、アイデアをまとめる時間とするようにしています。人に伝えるというのは話すことだけでなく「波紋」のコラム、ブログも自分の考えをまとめ、発表するという意味ではアウトプットの一つです。情報を有効に使える人というのはこのどちらでもないでしょうか。

「花見」

光田 昭男（企画営業部）



4月3日土曜日強風で寒い一日でしたが、サクラは満開でした。愛知カントリー倶楽部へ花見ゴルフに連れてっていただききました。一度は満開のサクラの中でプレイをした

いと考えており、念願が叶いました。愛知カントリー倶楽部は、名門だけにメンバー本人が30日前の朝6:30にはフロントで順番を待ち、エントリしなればならず、メンバの鬼頭社長にご迷惑をお掛けしました。有難うございました。

No.4のサクラは、中部ゴルフ連盟の加盟クラブ会報の表紙を飾るほど綺麗で大きなサクラで歴史を感じます。

151Yのシヨートホールで、ティーグラウンドからグリーンに向かうカート道路は池を廻り込み、サクラの木の下の走り、サクラ並木がとても綺麗です。

キヤデイさんが教えてくれたのが「グリーンに近い桜が若いサクラですよ。」と、他のサクラと比較すると色が確かに違っていました。

どちらが綺麗とは言えませんが、10月には第75回日本オープンゴルフ選手権競技が開催されます。

もし行かれるならば、桜は咲いていませんが、No.4を観てください。



「宇宙戦艦ヤマト」

加藤 雅昭（営業部）



今年12月に木村拓也主演で宇宙戦艦ヤマトが上映されます。アニメ・宇宙戦艦ヤマトと言えば私がちょうど35年前、中学3年生の時のアニメが放送されていました。そこには今までのアニメとは違ういろいろな言葉が出てきており、それによっていろいろなことを覚えたことを覚えていきます。アステロイドベルト・マゼラニックストリウム・ワープなどなど、興味深いものばかりでした。ワープなんて言葉はたしかスタートレックで聞いたぐらいで日本のテレビでは聞いたことがなかったと思います。受験勉強するからといって友達の家でヤマトに出てくるいらないなりにみんな読んで読んだ特殊相対性理論の本やブラックホールやクエーサーなどのことを調べ、サニヤック効果・E=mc²・ブラックホールは脱出速度が光速を超えるから暗いなど、わからないのに一生懸命でした。あれ・あれ・受験勉強してなかったなあ。私はこのヤマトのメインは、ガミラスとの戦いの後の古代進の言葉だと思っています。戦いが終わり、荒れ果てたガミラスの街をみて古代がつぶやきました。「われわれはいままで人と争って勝つことだけを教えられてきた。しかし勝った人はいい、負けた人はどうなる？ 幸せになる権利はないのか！ 俺は今までのことを考えたことなかった。地球の人もガミラスの人もただ幸せに暮らすので違っていたらごめんさい。」（私のうる覚え）この言葉は今でも心の中に残っています。この12月のヤマトはどんなヤマトになるのか、何をメインに持つてくるのか、ただかっこいいだけの映画にはしてほしくないなと思っています。

上海万博



2010年5月開幕!



名称2010年上海国際博覧会 (EXPO 2010 Shanghai, China)

開催期間：2010年5月1日～10月31日 (184日間)

開催場所：上海都心部 南浦大橋～虜浦大橋

会場面積：(観覧エア) (愛・地球博の約2倍)

テーマ：より良い都市・より良い生活

参加申込状況240 (192カ国・48国際機関) (2009年7月現在)

万博史上最大規模の面積・パビリオン・イベント数を予定これまで最大の1970年大阪万博の6,400万人を大きく上回る、7,000万人の入場者が見込まれる史上最大の万博です。

博覧会ロゴ

国際博覧会のロゴマークは、それぞれの国際博覧会の理念を表現したものとして、20世紀以降の博覧会でよく使われるようになりました。2010年上海国際博覧会のロゴマークは、漢字の「世」と数字の「2010」を組み合わせて作られました。

「ポイ捨て」

小坂 美香 (営業部)



最近、通勤時に(自宅から駅まで行く途中)、毎朝ゴミ拾いをしていて人を見かけるようになりました。多分、自主的にやっているのだらうと思えますが、雨の日でも合羽を着て、道端に落ちていたゴミを拾っています。大体同じ所でその人を見かけるのですが、その人が持つていくゴミ袋はいつもいっぱいです。毎日同じ場所のゴミ拾いをしていて、どこからこんなに出でくるのだらうと思ってしまう。以前、あるお店の駐車場の横を通りかかった時に、一台の車が駐車をして車から人が出てくるところでした。その時、手にはゴミ袋を持っていました。それをその場に置いてお店の方へ行っていました。置くと言うよりは捨てたと言った方がいいのかも知れません。他にもこのようなポイ捨ての光景を何度か見た事があります。誰かが見ていようが平気でやっています。驚きました。ただゴミ箱に捨てるだけの事なのに、どうして出来ないのだらうと不思議に思います。こういう事をしてる人がいるから、いくら掃除をしても、きりが無いのかなと感じました。この人達が、あの掃除をしている光景を見たらどう思うのかなと思いましたが、少しだけでも、ポイ捨てをする人がいなくなれば、いいなと思っ



5月の予定

1日(土) 加藤貴幸さん誕生日

第1土曜日休み

2日(日) 大和田夕美さん誕生日

3日(月) 憲法記念日

4日(火) みどりの日

5日(水) こどもの日

8日(土) 第2土曜日休み

(休業実施日)

11日(火) 松井えり子さん誕生日

15日(土) 第3土曜日休み

18日(火) 西垣浩司さん誕生日

22日(土) 第4土曜日休み

23日(日) 阿部かおるさん誕生日

24日(月) 生産会議 12時～13時

CS向上会議 14時10分～15時

経営会議 15時30分～16時30分

27日(木) 伊藤雅典さん誕生日

29日(土) 第5土曜日休み



「3D映画」

伊藤 雅典 (製造部)



昨年の暮れ、家内と何十年ぶりかで映画館へ足を運び、アバターを観てきました。館内へ入場する際に、3D画像鑑賞用の眼鏡を貰い席に着きました。着いた席は前より4列目という最悪な席と思いきや、結構ド迫力で観ることが出来ました。日本語吹き替え版で良かったです。

ストーリーは、西暦2154年。パンドラという惑星のできごとで、地球でエネルギー問題の解決の鍵となる希少鉱物の鉱床略脱のため、その惑星の種族と人間が武力衝突へ発展していくという話です。アメリカの反軍批判を思わせるような、しっかりしたストーリー性のある、面白い内容でした。上演後、間もなく、平衡感覚失ってしまうようなめまいがしましたが、すぐに慣れました。中には、気分が悪くなり途中退場をされた方もあるようです。しかし、私もあまり目が良い方ではないので、見ている最中に目が疲れ、幾度かめがねをはずしました。3D映像というと、2005年の愛・地球博会場でいろいろなどころで観ましたが、今回のような、迫力のあるところ、奥行き感のある映像を見たのは初めてでした。登場してくる、キャラクターの色・幻想的なジャングルシーンなどは本当にきれいな色というか、色彩表現がされていました。まあ、口で言っても何ですのを見て頂いた方が早いですね。

ところで、この映画のジェームズ・キャメロン監督をご存知でしょうか、代表作を言うとターミネーター・エイリアン・タイタニックなどがあり、すごい興行収入を上げた作品の監督です。タイタニックはアメリカでの歴代興行収入をあげており、今回自分も持つ記録を自分で破るという快挙を成し遂げた監督です。アバターの構想はかなり前からあったそうですが、それを現実化するための撮影技術が出来上がったいかなかったため、タイタニックより12年後というこの時期になったとのことだそうです。

というのは、従来の3D映像の奥行き感には満足が行かず、自分自身でビュージョン・カメラ・システムというを開発していたということです。そんなところが映画マニアからも一置かれる存在だそうです。今後、そんなアバターと比較しながら3D映画を見るために映画館へ足を運びたいと思います。